



**清水建設株式会社
ブルーボンド・フレームワーク**

2025年12月

1 はじめに

本フレームワークは、洋上風力に関するプロジェクトを資金使途としたブルーボンド・フレームワークです。近年地球温暖化による環境・社会への影響はもはや無視できるものではなく、対応が急務となっている中、日本をはじめとした各国でその解決策のひとつとして再生可能エネルギーの活用が推進されています。風力発電は重要な再生可能エネルギーのひとつであり、特に海上の強く安定した風をエネルギーとして用いる洋上風力発電は、海洋資源の活用という点で「ブルー・プロジェクト」に該当すると考えております。当社は、洋上風力発電施設の施工・メンテナンスに必要不可欠な SEP 船 (Self-Elevating Platform:自己昇降式作業船) 「BLUE WIND」をとおして、洋上風力発電の発展に貢献することを目指し、この度ブルーボンド・フレームワークを発行いたします。

1.1 当社の概要

1804 年、清水喜助が江戸神田鍛冶町に大工業を開業したのが、当社の起源です。以来、個人営業の時代が続きましたが、明治中期には近代建設業者としての基礎を確立し、現在に至ります。

当社は、1887 年に相談役としてお迎えした渋沢栄一翁の教えである、道徳と経済の合一を旨とする「論語と算盤」を「社是」とし、この考え方を基に、当社が経営活動を通じて果たすべき社会的使命を「経営理念」として定めました。



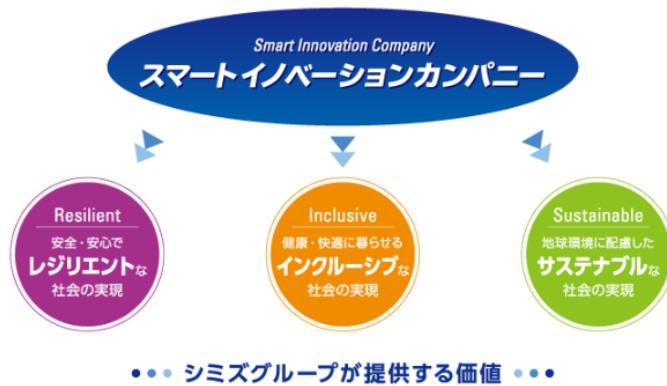
当社グループは、社是、経営理念、長期ビジョンである「SHIMZ VISION 2030」の実現に向けて、2024 年 5 月に中期経営計画〈2024-2026〉を策定し、新たなマインドセット「超建設」をベースに取り組んでおります。「超建設」とは、これまで目的としていた「建設」を手段としても捉え、事業や組織の枠を超えた活動に挑戦することであり、お客様や社会の本質的なニーズを探究し、建設をはじめとする様々なサービスを通じてニーズの実現を図り、新しい価値を提供するという考え方です。当社グループは、このマインドセットにより、時代を先取りする価値の創造に挑戦し、お客様や社会と共に持続的な成長を目指してまいります。

1.2 サステナビリティ経営

長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」

当社グループは、建設事業の枠を超えた不断の自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じて、時代を先取りする価値を創造（スマートイノベーション）し、人々が豊かさと幸福を実感できる、持続可能な未来社会の実現に貢献してまいります。

当社グループが掲げる 2030 年までの長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」では、目指すべき社会の姿を「安全・安心でレジリエントな社会」「健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会」「地球環境に配慮したサステナブルな社会」とし、企業活動を通じてその実現に貢献していくことを明記しております。また、ビジョンの実現を通じて、国際的な目標である SDGs の達成にも寄与していきたいと考えております。

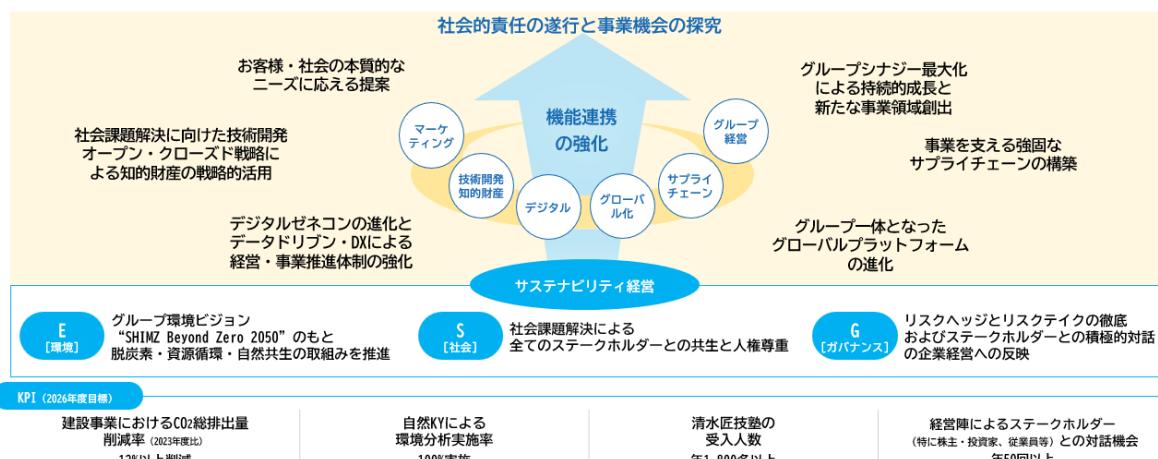


中期経営計画(2024-2026)

「中期経営計画〈2024-2026〉」では、基本方針として「持続的成長に向けた経営基盤の強化」を掲げています。経営基盤の強化として、第一に「経営の中核である人財と組織力の成長」、第二に「機能連携を通じたサステナビリティ経営の進化」を掲げ、その両輪をもって、戦略実行力の高度化を図っていきます。

機能連携の強化として、「マーケティング」「技術開発・知的財産」「デジタル」「グローバル化」「サプライチェーン」「グループ経営」の 6 つの重要機能を横断的に連携させ、部門単体では解決困難な課題に対して全社で取組むことで、企業としての責任と成長機会を両立するサステナビリティ経営の進化を目指しています。

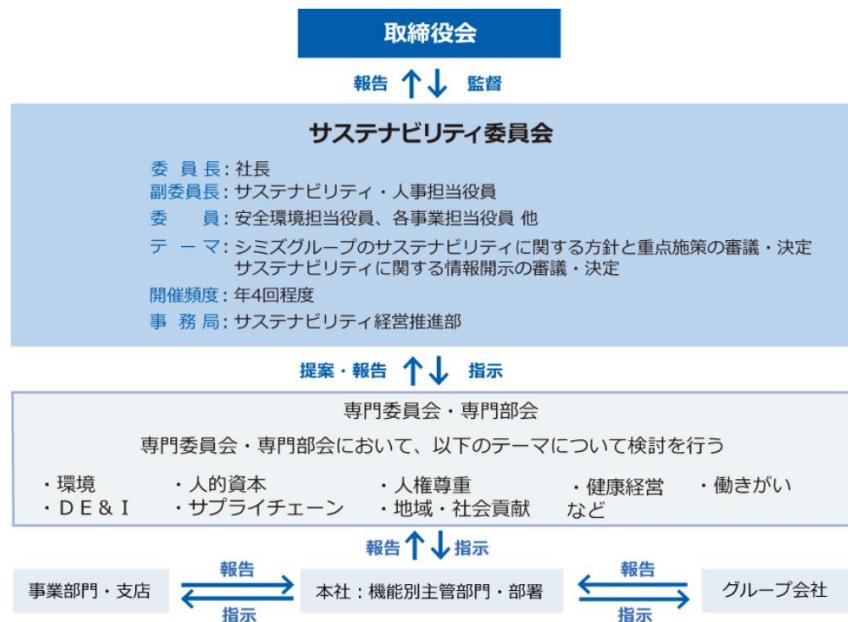
各種機能の連携を強めて経営基盤の強化を図り、
企業の社会的責任と、事業機会の探究を両立したサステナビリティ経営へ



サステナビリティ推進体制の強化

当社では、「サステナビリティ委員会（委員長：社長）」を設置し、当社グループのサステナビリティに関する方針と重点施策並びにサステナビリティに関する情報開示の審議・決定を行っています。重要事項については、取締役会に報告を行い監督するガバナンス体制を構築しています。

サステナビリティ委員会の下部組織に専門委員会・専門部会を設置し、サステナビリティに関わるそれぞれのテーマについて検討し、その結果を委員会に付議するとともに、委員会の審議・決定事項を関連する機能別主管部門・部署に対して指示または報告を受ける体制も整えています。



1.3 マテリアリティ

当社は、SDGs をはじめとする様々な社会課題や当社の社是、経営理念、長期ビジョン等を勘案し、「社会への影響度」と「自社にとっての影響度」の 2 つの側面から重要度を検討のうえマテリアリティ（重要課題）を特定し、サステナビリティを強く意識した事業活動を推進しています。

カタゴリ	マテリアリティ
マテリアリティを通じて事業に貢献できる マテリアリティ	1. 安全・安心でレジリエントな社会の実現 ・強靭な社会基盤の構築 ・建物とインフラの長寿命化
マテリアリティ マテリアリティのため	2. 健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会の実現 ・快適なまちづくり ・Well-being 対応
	3. 地球環境に配慮したサステナブルな社会の実現 ・脱炭素 ・資源循環 ・自然共生(生物多様性の保全) ・環境汚染防止
	4. 誠実なものづくりの推進 ・生産性の向上 ・品質の確保 ・サプライチェーンの強化 ・労働安全衛生の徹底
	5. 時代を先取りする新しい技術と価値の創造 ・先端技術開発 ・新たなビジネスモデルの創出
	6. 次世代を担う人財の育成と働きがいの追求 ・働きがいと魅力あふれる職場づくり ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン ・人権の尊重 ・挑戦し創創する多様な人財の育成
	7. 「論語と算盤」を基本に据えた経営基盤の構築 ・リスクマネジメント ・コンプライアンスの徹底

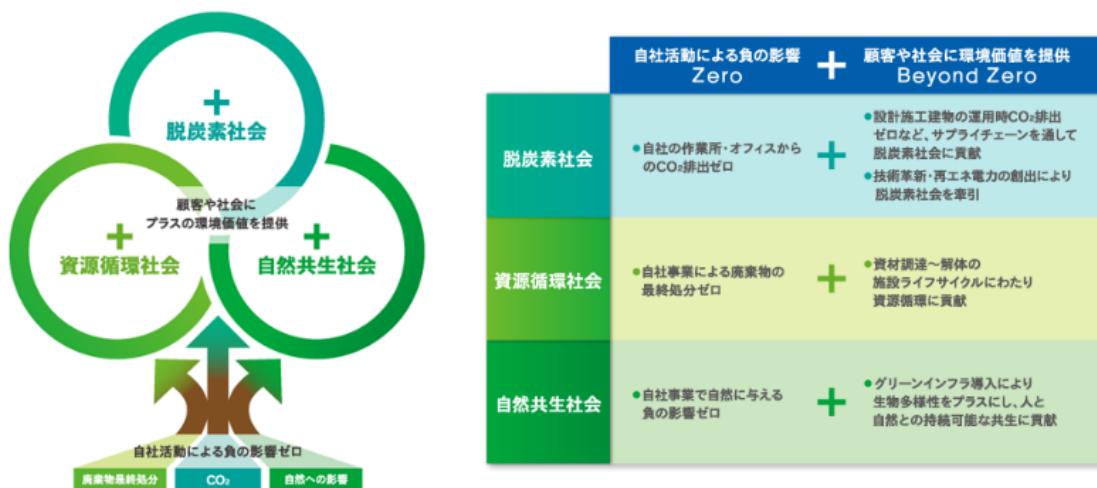
1.4 SHIMZ Beyond Zero 2050 で目指す脱炭素社会とブルーボンド

当社は、環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」にて、目指す持続可能な社会を「脱炭素社会」「資源循環社会」「自然共生社会」と定め、お客様や社会にプラスの環境価値を積極的に提供していくことを目指すべき姿として掲げています。現在、地球温暖化に対する危機感が年々高まり、社会全体で脱炭素化に向けた動きが進む中、企業が持続的成長を図るために、気候変動問題への対応を“企業の社会的責任”として捉えるだけでなく、“成長の機会”につなげていく姿勢が求められています。環境と経済活動の両立を目指す「SHIMZ Beyond Zero 2050」の思想は、当社の社是「論語と算盤」に通底するものです。当社グループは環境ビジョンのもと、脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現に向けた取り組みを加速し、SDGs が目指す持続可能な社会の実現に貢献していく考えです。

SHIMZ Beyond Zero 2050 で目指す姿の中で、「脱炭素社会の実現」については、自社のすべての事業活動における CO2 排出ゼロはもとより、技術革新への不断の取り組みや再生可能エネルギーを利用した電力創出などを通じて社会の脱炭素化を牽引しています。その取り組みの一つとして、洋上風力発電施設の施工に必要な作業船である、SEP 船「BLUE WIND」を建造しました。

SHIMZ Beyond Zero 2050

シミズグループが目指す持続可能な社会



ブルー・プロジェクトとしての洋上風力発電

洋上風力発電は、発電能力の規模や安定性から、現在期待が高まっている再生可能エネルギーの一つです。2025 年 2 月に日本政府により発表された第 7 次エネルギー基本計画の中では、洋上風力発電について、今後、我が国の電力供給の一定割合を占めることが見込まれる再生可能エネルギーの主力電源化に向けた「切り札」とされています。海洋環境や海洋資源を保全しながら持続可能な経済活動を行う考え方には「サステナブル・ブルーエコノミー」と呼ばれており、その実現に向けた資金調達である「ブルー・ファイナンス」に対しては近年注目が高まっています。海洋環境や海洋生態系に配慮しながら行われる洋上風力発電は、海上の強く安定した風をエネルギーとして活用する点で「ブルー・プロジェクト」に該当すると考えています。

洋上風力発電と BLUE WIND

洋上風力発電施設の施工には、波の影響を受けずに安定して据付が可能な専用船が必要です。SEP 船は、4 本の脚をジャッキダウンして海底に着床させ、船体を海面から浮上させて自立することができ、海が荒れて波が高い時でも影響を受けず、安定した姿勢で施工することができます。

当社の BLUE WIND は、下記に示す能力・機能を有しており、14MW～15MW 級の大型風車の基礎や風車の据付工事が可能です。日本近海の太平洋側で見られる 10 秒程度の長周期波浪（うねり）においても、船体のジャッキアップ・ダウンが可能であり、非常に高い稼働率を実現できます。また、自航式であり、曳航のための船をチャーターする必要がないため、合理的な施工計画の立案が可能です。

BLUE WIND という船名には、当社のコーポレートカラーである青を基調とした船体が風のように海原を駆け巡り、洋上風力発電施設の建設市場を席卷する、という思いが込められています。

BLUE WIND は、2022 年 10 月に建造し、2023 年以降、富山県入善沖、北海道石狩湾新港（国内最大規模となる 8 MW 風車）において洋上風力発電施設を施工しました。さらに台湾の傭船 3 案件にも参加することで、施工ノウハウを着実に蓄積しています。当社は今後も BLUE WIND の優位性を生かしながら、洋上風力発電施設施工のトップランナーを目指し、脱炭素社会実現に向けた取り組みを強力に推進してまいります。

BLUE WIND 概要

全長	142m
全幅	50m
船体の深さ	11m
総トン数	28,000t
メインクレーン最大揚重能力	2,500t
メインクレーン最高揚程	158m
航海航行スピード	11 ノット
最大乗船人数	130 名
レグの長さ	90m (109m まで延長可)
船籍	日本



2 ブルーボンド・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）が定めるグリーンボンド原則 2025（GBP）、環境省によるグリーンボンドガイドライン（2024年版）、ICMA、IFC、UNEP FI、UNGC 及び ADB による A Practitioner's Guide for Bonds to Finance the Sustainable Blue Economy : SBE ガイドに適合しており、以下の4つの柱について定めています。

1. 調達資金の使途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

2.1 調達資金の使途

本フレームワークに則り発行する債券総額と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、新規または既存の適格プロジェクトに充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、発行から遡って3年以内に稼働開始したものとします。

適格プロジェクトは、当社及び当社グループ会社により実施される以下の適格クライテリアを満たす設備投資や運転資金を指します。

SBE ガイド ブループロジェクト カテゴリー	ICMA 事業カテゴリー	適格クライテリア	SDGs
海洋再生可能 エネルギー	再生可能 エネルギー	洋上風力発電施設を施工する SEP 船に係る設備投資等	  

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

ブルーボンドの調達資金が充当される適格プロジェクトは、財務部と社内関係部署との協議により適格クライテリアに合わせて特定し、対象事業候補とした事業についてブルー・プロジェクトとして選定します。ブルー・プロジェクトの選定の結果については財務担当役員が承認します。なお、当社がこれまでに当該 SEP 船で施工した案件は、事業者が海域調査や環境アセスメントを実施し、海洋環境・海洋生態系への配慮がなされており、今後当社が手掛ける洋上風力案件についても同様の配慮がなされる見込みです。

2.3 調達資金の管理

当社財務部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理する内部管理システムを用意し、本フレームワークにて発行されたブルーボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、償還までの間、四半期毎に内部管理システムを用いて、追跡、管理します。また、調達資金の未充当期間が発生する場合は、当社が未充当額と等しい額を現金及び現金同等物にて管理します。

2.4 レポート

2.4.1 資金充当レポート

当社は下記の内容について、調達資金が充当されるまでの間、適格プロジェクト別に債券単位にて下記の調達資金の充当状況について年次でレポートを行い、当社ウェブサイト上にて開示します。

なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

- 適格プロジェクトへの充当額と未充当額
- 未充当額がある場合は、充当予定期限および未充当期間の運用方法
- 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

2.4.2 インパクトレポート

当社は下記の内容について、ブルーボンドの発行残高がある限り、適格プロジェクト単位にて、下記の項目について実務上可能な範囲で年次にてレポートを行い、当社ウェブサイト上にて開示します。

SBE ガイド ブループロジェクト カテゴリー	ICMA 事業カテゴリー	適格クライテリア	レポート項目
海洋再生可能 エネルギー	再生可能 エネルギー	洋上風力発電施設を施工する SEP 船に係る設備投資等	SEP 船「BLUE WIND」により施工 された洋上風力発電設備の基数・ 発電容量等